

## ホルムズ海峡封鎖に伴う中東情勢の現況①

日本人船員全員がペルシャ湾外へ退避（24 人→0 人）

今年 2 月 28 日に始まった米国・イスラエルとイランとの軍事衝突により、ホルムズ海峡が事実上封鎖されてから、既に 4 カ月以上が経過した。

このような中、米国とイランは、6 月中旬に戦闘終結に向けた「覚書」に合意・署名した。覚書が締結されたことを受け、国際海事機関（IMO）は、「各国政府および産業界との協力のもと、大規模な作戦を実施する」との声明を発表し、ペルシャ湾内にいまだ滞留する 1 万 1000 人以上の船員の避難計画を発表した。またオマーン国は、15 項目からなる航行警報を発出し、IMO と協力して暫定的な海上回廊を設定する考えを表明した。これにより、ペルシャ湾内への滞留を余儀なくされていた船舶の退避が進むことが期待された。

しかし、6 月 25 日にイラン革命防衛隊は「事前調整のない回廊設置は認められない。イランが指定した航路以外を通過することは危険であり禁じられている」との声明を発表し、声明発表同日にホルムズ海峡を通過した船舶が攻撃を受ける事案が発生、この船舶への攻撃事案を受け、IMO は、避難計画を一時的に停止する旨を発表し、未だ予断を許さない状況にある。

「海員だより」